

～令和3年10月 データから見た業界の動き～

10月報告のポイント

売上高D.I値は再びプラスを示すが……

原材料・燃料の高騰、中小企業者の事業継続に大きな課題

■ 概 況

10月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で売上高+4ポイント（前年同月比+38）、収益状況▲20ポイント（前年同月比+14）、景況感▲10ポイント（前年同月比+36）となり、売上高D.I値が2ヶ月ぶりに再びプラスを示した。

業種別では、製造業は売上高▲5（前年同月比+40）、収益状況▲25（前年同月比+30）、景況感▲20（前年同月比+40）となった。新型コロナウイルスの感染者数が減少し、事業活動がしやすくなったと感じる（水産物加工業、紙製造業）、大規模な展示会や商談会の開催に期待が持てる（織物業）などの報告があった。

酒類製造業は、昨年同時期の「GoToトラベルキャンペーン」期間中の売り上げと比較すると売り上げは減少したが、今後は酒類の消費が拡大していくと予想している。

一方、家具製造、印刷、業務用機械器具製造、電気機械器具製造などには、需要の回復感はあるものの、木材、紙、鋼材などの価格が高騰していることから、売価等への価格転嫁が進まなければ、今後も厳しい経営状況が続くと考える事業者もあった。

非製造業では、売上高+10（前年同月比+37）、収益状況▲17（前年同月比+3）、景況感▲3（前年同月比+34）となった。ジュエリー製品卸売業、食肉小売業、宿泊業では人出の増加を感じており、事業活動が好転することを期待しているとの報告がされた。

道路貨物運送業も荷動きが少しずつ感染症拡大前の状況に戻りつつあるとする反面、燃料価格が高騰し続けているが荷主の経営状況を鑑み価格転嫁が難しいと報告、またガソリンスタンドからも原油の高騰が止まらず、販売価格への転嫁がしきれず収益が悪化しているとの報告があった。

D.I値を前月と比べると、全業種で売上高はプラスを示し回復傾向は顕著だが、収益状況、景況感はいずれもマイナスのまま、ほぼ横ばいの状況となっている。新型コロナウイルスの感染者数が減少し経済が動き出していると実感している事業者は多いが、製造業・非製造業共に、原材料・燃料の高騰により収益が圧迫されているとの声が多く聞かれ、原価高騰分を価格転嫁し販売・発注元へ請求することが難しく、事業者は動向を注視するほかないのが実情と言える。今後の事業継続に大きな影響を与える可能性が高く注視が必要である。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

<p>食料品 (水産物加工業)</p>	<p>業務用食材の売上げが好調。全体の売上げが前年同月比112%となり、新型コロナウイルス感染拡大前の売上げの70%ほどに回復してきた。感染者数が減少し経済活動が活発になってきたと感じている。</p>
<p>食料品 (洋菓子製造業)</p>	<p>新店舗の出店を行っている事業者は、出店効果により引き続き好調。前年同月比126%となった。</p>
<p>食料品 (酒類製造業)</p>	<p>G o T o トラベルキャンペーンが実施されていた前年同月と比較すると、売上げ、収益状況ともに悪化した。10月は感染者数が減少し人流が増加していると感じているが、まだ酒類の需要は高まっていない。11月には消費が拡大することを期待している。 また、8月の天候不良がぶどうの品質に影響していたが、9月に入り天候が回復したことで良質なワインに仕込むことができた。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>裏地部門では、全体として依然厳しい状況にあるが、輸出用の胴裏地にわずかな動きがある。インテリア部門では、今まで止まっていた住宅関連商品に注文が入るようになってきている。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>売上げは前年同月比95%となった。新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にあり、12月の東京国際フォーラムで開催される大展示会・商談会の開催に若干の期待ができる。</p>
<p>木材・木製品製造</p>	<p>例年この時期は繁忙期になるが、新型コロナウイルスやウッドショックの影響により少し落ち込んでいるように感じる。木材の価格が上昇している反面、売上げがさほど伸びていないことから、前年より仕事量が減少しているといえる。</p>
<p>家具製造</p>	<p>新型コロナウイルスの影響によりマレーシアでの生産がストップし、海外生産品の欠品が出ていることから、国内で補完生産が開始されたが原価は高騰、販売価格に転嫁できず収益が悪化した。</p>
<p>紙製造業</p>	<p>前年同月と比べ売上げ、収益状況ともに▲30%となった。しかし、新型コロナウイルス感染者数が減少したことで、経営の影響が少なくなったように感じている。</p>
<p>印刷・同関連業</p>	<p>インキ、用紙、ガソリンなど、様々な原材料が大幅に値上がりしている。販売価格に転嫁できず、前年同月と比べ売上げは増加したが、収益は悪化した。</p>

窯業・土石 (山碎石)	公共工事の減少とリニア新幹線関連工事の遅れが大きく影響し、前年同月と比べ売り上げ・収益ともに▲20%となった。出水期間にあたるため河川関連工事の施工が進まないことも要因ではあるが、工事量減少の影響が大きすぎる。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	業界全体では受注量は回復傾向にあるが、半導体関連部品を含め部品不足が影響し減産傾向にある。材料費などあらゆる面で物価が高騰し収益を圧迫、厳しい経営状況が続くと考えている。
一般機器 (生産用機械器具製造業)	売り上げが前年同月比で20%程増加した。仕事量も若干の増加傾向にあるが、4休3勤で操業している組合員でも納期に問題なく対応できている。受注動向の先行きは依然不透明だが、景況は上向きの傾向が見られる。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ、売り上げ、収益ともに悪化した。半導体の供給不足や部材の納品が遅れていることから、半完成品の在庫が増えている。
電気機器 (電気機械部品加工業)	半導体製造関連の受注は依然順調に推移している。アルミ、ステンレス、銅などの鋼材価格が値上がりしているが製品価格に転嫁できず、売り上げが増加しても収益は悪化している。11月と1月にアルミが再び値上がりすることから、発注元との交渉が必要だと考えている。
宝飾 (研磨)	10月27日(水)～29日(金)にかけて毎年恒例の国際宝飾展が開催された。来場者は前年より増加したが、売上金額は前年と変わらず、10月期の売り上げも前年同月と比べて変化はなかった。
宝飾 (貴金属)	前年同月と比べ売り上げが▲30%となった。新型コロナウイルスの影響により、各組合員が営業活動を充分に行えないことが理由だと考えている。

● 非製造業

卸売 (自動車中古部品)	前年同月に比べて各素材の相場は非常に良いが、新車の納期遅延を受けて廃車の発生台数が減少している。10月の新車販売台数も前年同月比で30%以上減少している。現状では改善の見込みはない。
卸売 (ジュエリー)	前年同月と比べ売り上げが20%程増加した。全都道府県の緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除され、人流が回復していると感じている。

<p>小 売 (青 果)</p>	<p>やまなしグリーン・ゾーン認証を受けていない飲食店等への休業要請は解除されたが、来客数が伸びていないのか消費の動きは鈍い。行楽、外出等での人流の増加を期待している。</p>
<p>小 売 (食 肉)</p>	<p>GoToEatキャンペーンが実施されていた前年に比べると売上げがやや減少した。全国的に緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除になり人流が増加してきていると感じているが、各種飲食店の動きは不安定。11月は、県や市で実施されている宿泊割引を活用する県民や県外からの旅行、修学旅行などに動きが見られ予約状況は好調なようで、商品が動き始めている。</p>
<p>小 売 (電気機械器具小売業)</p>	<p>前年同月は山梨県グリーンゾーン構想に基づく助成制度により、空調関連商品への需要が拡大していたため、地域店では150%近く売上げが増加していた頃から比較すると大幅に減少した。量販店における前年の特需による伸び率は大きくなかったが、全体で見ても前年同月比▲43%となった。</p>
<p>小 売 (ガソリン)</p>	<p>原油の高騰が止まらない。市場価格に完全転嫁することができず、売上げは増加したが、収益は悪化している。</p>
<p>商 店 街</p>	<p>組合の駐車場収入は前年同月とほぼ変わらないが、売上げ指標であるポイント売上は前年と比べ減少している。組合、組合員ともにまだまだ厳しい状況が続いている。</p>
<p>宿 泊 業</p>	<p>まん延防止等重点措置が全県で解除されたが、いまだ資金繰りに厳しい状況が続いている。少しずつ人の流れが出てきているように感じることから、11月以降はイベント等の開催や観光客の増加により、状況が好転することを期待している。</p>
<p>一般廃棄物処理</p>	<p>人材確保がままならないことから、労働力を補うために車両の積載重量を増やし運搬効率を上げるため大型車両の買入を計画している組合員がいる。また、来年度から施行されるプラスチック資源循環促進法に際して、行政との新たな業務契約の交渉が始まっている。組合では運賃と作業料の区分を行政等にアピールし、適正な事業運営となるよう取り組んでいる。</p>
<p>警 備 業</p>	<p>土木建築部門の警備業務は、工事発注量が増え天候にも恵まれたことから前年同月と比べ売上げが増加した。加えて、新型コロナウイルスの感染者数が減少し、イベント等の警備業務も小規模ながら再開し、景況が好転してきたと感じている。しかし、下期に入り工事関連の警備業務の需要は更に増大するものの、深刻な警備員不足が続き、既に年内は受注ができない状態にある。これを解消するため、公共工事の発注の平準化を望む。</p>

<p>建設業 (総合)</p>	<p>公共工事は前年同月と比べ件数は18%減少、請負金額も11%減少した。10月末累計では件数は1.6%減少したものの、請負金額では9%の増加となっている。建設業関連の保証会社が実施している「建設業景況調査」によると、7～9月に比べ10～12月の動向は「悪い傾向がやや強まる見通し」とされており、今後の動きを注視したい。</p>
<p>建設業 (型枠)</p>	<p>夏以降、庁舎をはじめとした公共工事やリニア新幹線関連施設の建設、また、アフターコロナを見据えた民間の設備投資が増えた。しかし、コンパネ等の木材や釘等の金物類の材料代が高騰していることに加え職人が不足、受注は多いが収益が上がらない状況となっている。</p>
<p>建設業 (鉄構)</p>	<p>鋼材、副資材の価格高騰や工期の延期や長期化により、受注価格及び納期の面から契約に結びつかないケースが出てきている。受注後も材料の価格が上昇し続けているため、収益が圧迫される状況が続いている。</p>
<p>設備工事 (管設備)</p>	<p>売り上げが前年同月比38%程増加した。しかし、月単位で工事量が変動していることや資材が高騰していることから、今後の見通しが難しい。</p>
<p>運輸 (タクシー)</p>	<p>休日前の夜間タクシーの利用は増加傾向にあるが、それ以外の日は利用客が減少したままで変化を感じられない。11月には、スマートフォンのアプリなどを使い、バスやタクシーなど複数の交通手段を組み合わせることで目的地まで移動する次世代の交通サービス「やまなし観光Ma a S」の実証実験が行われることから、良い結果を残しその後に活かせることを期待している。</p>
<p>運輸 (トラック)</p>	<p>荷動きが少しずつ感染症拡大前の状況に戻りつつあるが、燃料価格が高騰し続けているため収益状況を悪化させている。荷主企業も新型コロナウイルスの影響を受け減収・減益となっていることから、燃料高騰分を価格に転嫁し請求することが難しい。今後の燃料の価格変動を注視したい。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2020/10	2021/9	2021/10	2020/10	2021/9	2021/10	2020/10	2021/9	2021/10
売 上 高	-45	-25	-5	-27	-10	10	-34	-16	4
収 益 状 況	-55	-30	-25	-20	-17	-17	-34	-22	-20
景 況 感	-60	-15	-20	-37	-7	-3	-46	-10	-10

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

